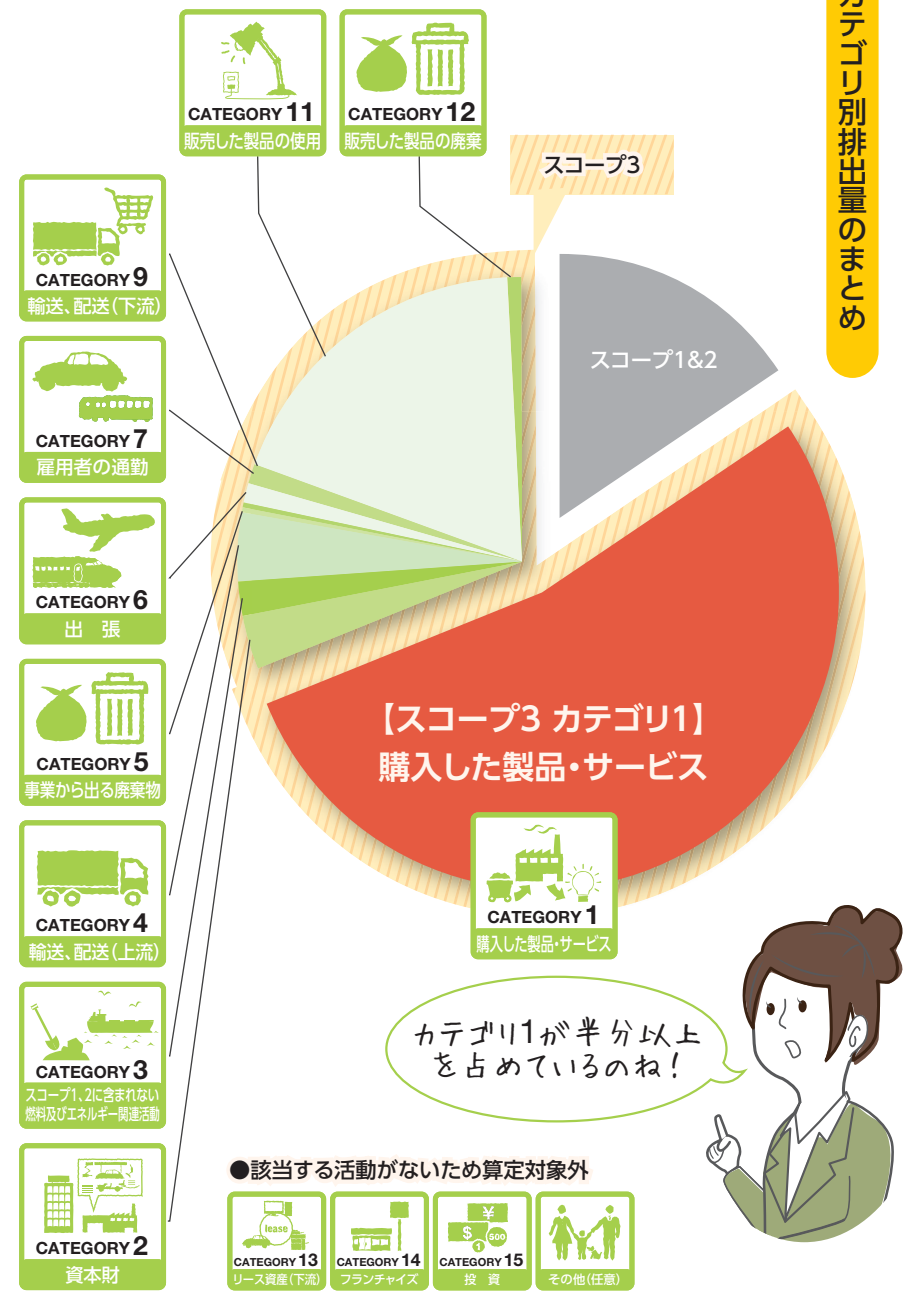


おわりに

カテゴリ別排出量をまとめ、取組みの効果を検討しよう

TRY
排出量の多いカテゴリを見つけ削減する
ことで、コストの低減を図ろう。

1 カテゴリ別排出量のまとめ



2 カテゴリの内訳

購入した製品・サービス	①×②	該当する活動	調達元	①活動量	②排出原単位	参照元	備考
算定対象範囲: 国内の環境 マネジメント システムの 対象範囲	105,200	フィッシュ ブロック	◎◎フード	26.3 百万円	4.00 t-CO ₂ eq/百万円	環境省DB[5] No.42「その他の水産食品」	
	105,648	冷凍魚介類	◎◎フード	18.6 百万円	5.68 t-CO ₂ eq/百万円	環境省DB[5]No.	
	46,506	ベーコン	○○ミート	6.9 百万円	6.74 t-CO ₂ eq/百万円	環境省DB[5] No.35「肉加工品」	
	30,044	小麦粉	△△製粉	2.8 百万円	10.7 t-CO ₂ eq/百万円	環境省DB[5] No.44「製粉」	
	11,416	塩	○△製塩	0.8 百万円	14.3 t-CO ₂ eq/百万円	環境省DB[5] No.108「塩」	
	5,733	砂糖	△○製糖	0.7 百万円	8.19 t-CO ₂ eq/百万円	環境省DB[5] No.50「砂糖」	
	8,610	香辛料	△&◎	2.1 百万円	4.10 t-CO ₂ eq/百万円	環境省DB[5] No.55「調味料」	
	41,112	油	○○オイル	3.6 百万円	11.4 t-CO ₂ eq/百万円	環境省DB[5] No.53「植物油脂」	
	58,520	びん	◎□ガラス	9.5 百万円	6.16 t-CO ₂ eq/百万円	環境省DB[5] No.148「その他のガラス製品」	
	39,564	包装袋	△△袋店	8.4 百万円	4.71 t-CO ₂ eq/百万円	環境省DB[5] No.138「プラスチック品」	
	68,900	食缶	◎◎製缶	10.6 百万円	6.50 t-CO ₂ eq/百万円	環境省DB[5] No.188「金属製容器及び製品」	
	45,356	段ボール	□□ダンボール	5.8 百万円	7.82 t-CO ₂ eq/百万円	環境省DB[5] No.97「段ボール」	



カテゴリ別排出量のまとめ

サプライチェーン排出量の算定、お疲れ様でした。これで、会社に来ているアンケートの関連する設問に自信を持って答えることができそうですよ。先日の社内会議でも、経営陣が「環境をビジネスとして捉える」という方針を打ち出していて、そのためにまずは投資家や消費者に対して環境に対するリスクや事業機会について認識しているということをしつかり示していきたいんだ。

でも算定しただけで満足してはだめだよ。算定結果をどのように活用していくかが重要になるからね。Aさん、算定結果から分かることがあるかな。

はい、①当社のサプライチェーン排出量の全体を見た場合、カテゴリ1の購入した製品・サービスが全体の半分以上を占めることが最大のポイントだと思います。このカテゴリの削減を今後考えていく必要があると思います。

②購入した製品ということは、モエバーガーのフィッシュブロックを調達している海外会社からの調達が多いよね。あそこの会社は今すごい省エネ努力を進めているはずなんだけども。

はい。私も研修で見てきたんですが、高効率の冷凍設備の導入や輸送ルート効率化などの省エネ努力をされていました。でも、今回の算定ではカテゴリ1は排出原単位から算定しており、そういった取組が反映できていない。一般的なサプライヤーから調達した場合と同じ結果になっているんです。

じゃあ、海外会社から実際のエネルギー消費量のデータなどをもらうことで、より正確なサプライチェーン排出量の算定ができるし、省エネ努力をしているサプライヤーと連携していることを示せるかもしれないね。

他のサプライヤーにも省エネ取組みを進めてもらうように提案することで、さらにカテゴリ1の削減につながるかもしれないね。エネルギーコストは調達コストと直結するから、当社の調達コスト低減にも役立つかもしれないね。今後はそういったサプライヤー連携が取組みの力になりそうだね。

1 CDPジャパン500

- CDP(旧:Carbon Disclosure Project、現在は単に“CDP”)は、機関投資家が投資を行う際に、環境への取組を評価基準にしたいというニーズに対応するため、2000年に英国にて共同設立された国際NGO。本部はロンドンで、2015年には822の機関投資家が署名。
 - 世界中の時価総額の高い企業(全世界で5,000社以上)にアンケートを送付。
 - 日本企業は、「CDPジャパン500」の枠組みの中でFTSEジャパンインデックスを基本に選定した大手企業500社が評価対象。
 - 気候変動質問書は2003年に開始され、スコープ3の設問は、第1回目の質問書から含む。
 - 気候変動質問書の他にも、水、森林をテーマに質問書を送付している。
 - アンケートによって、低炭素社会の到来に対する企業の対応(リスクへの備え、事業機会としての活用など)を問い、企業のスコアリングを実施・公表するため、企業の関心が高い。
- <https://www.cdp.net/en-US/WhatWeDo/Pages/cdp-japan-background.aspx>



▲「CDPジャパン」ウェブサイト

表11. アンケートの回答内容に基づき企業のCO₂取組みの格付を実施(世界共通)

企業名*	2015スコア*	2014回答*	スコープ1,2 排出量合計	スコープ1 排出量	スコープ2 排出量	重要な スコープ3 排出量 回答数*	検証/保証 ステータス*	排出削減 目標*
一般消費財・サービス								
アイシン精機	94 B	AQ			非公表			
アシックス	94 C	AQ	22,980	5,612	17,368	10	VAA S1+, S2+	Abs, Int
いすゞ自動車	AQ	NR	231,885	129,893	101,992	0		Int
エクセディ	49	DP			非公表			
カシオ計算機	96 C	AQ			非公表			
カルソニックカンセイ	83 D	NR	203,355	34,788	168,567	0		Int
キヤノンマーケティングジャパン	SA	SA			SA			
クラリオン	SA	-			SA			
	AQ	DP			非公表			
	48	AQ			非公表			
	95 C	AQ			非公表			
	93 C	DP			非公表			
	AQ	NR			非公表			
	98 C	AQ	905,126	229,162	676,963	11	VAA	

CDPスコアにおけるスコープ3対応評価の重みは、10%強。

スコープ3排出量回答数及び算定結果の第三者による検証・保証の受検状況についても公開。

出典: CDPジャパン500気候変動レポート2015

2 日経環境経営度調査

- 日本の主要企業3,600社が対象。
 - 「環境経営度調査」は企業の環境経営を総合的に分析し、温暖化ガスや廃棄物の低減などの環境対策と経営効率の向上を、いかに両立しているかを評価する調査で、日本経済新聞社が1997年から毎年1回実施。
 - 第16回「環境経営度調査」調査報告書(2012年9-11月調査)からスコープ3関連の設問が追加された。
 - 調査の概要はランキング形式で公表され、企業の関心が高い。
- 第19回「環境経営度調査」調査報告書より環境経営度ランキング(抜粋)
<http://www.nikkei-r.co.jp/domestic/management/environment/>



▲第19回「環境経営度調査」調査報告書・集計表データ

▲日経「環境経営度ランキング」ウェブサイト

3 環境省「環境にやさしい企業行動調査」

- 上場企業864社、非上場企業2,136社が対象。
 - 各事業者の環境への取組の実態を継続的に調査し、今後、事業者の環境への取組を一層発展させていくための政策に活かせる基礎資料を収集することを目的としたアンケート調査。平成3年度から年1回実施。
 - 平成26年度の活動を対象とした平成27年度の調査より、サプライチェーン排出量の算定状況や「基本ガイドライン」の利用状況の設問が追加された。結果の公表は平成28年5月頃を予定。
- <http://www.env.go.jp/policy/j-hiroba/kigyo/>



▲環境省「環境にやさしい企業行動調査」ウェブサイト

4 環境省「エコ・ファースト制度」

- 環境大臣に対し、企業が地球温暖化対策、廃棄物・リサイクル対策などの分野において、業界をリードするような取組み(「先進性」、「独自性」、「波及効果」で判断)を行うことを約束し認定を受ける制度。平成20年の開始以来、平成28年2月までに39社が認定を受けている。
 - 認定を受けると、「エコ・ファースト」マークの使用が可能となる。
 - 平成26年から、認定のための評価項目の一つにサプライチェーン排出量の公開が入っている。
- <http://www.env.go.jp/guide/info/eco-first/kijun.html>
<http://www.env.go.jp/guide/info/eco-first/kijun/kiyaku.html>



▲環境省「エコ・ファースト制度」ウェブサイト

▲「エコ・ファースト」マーク

ではまた!

Aです。サプライチェーン排出量の担当になってかなり不安でしたが、なんとか算定できました。次は算定結果の活用向け頑張ります! 最後までお付き合い、頂きありがとうございました。

私たちの取組みが少しでも皆様参考になればと思います。

まとめ

● 社は排出量算定によって、今後の課題となるカテゴリを特定し、環境に対する取組みへの外部評価も得ることができた。今後はこの結果を踏まえ、算定方法を見直しながら、さらなる排出量削減に取り組んでいく必要がある。

■ 排出量削減の取組や算定結果の活用ヒントと事例は裏表紙をご覧ください。

分りました。資料を一式持って同行します。当社の企業価値向上のためにも頑張ります!

荷の低い包装材の利用などの取組みにつなげたいようだから、サプライチェーン排出量の考え方も興味があるみたい。社長から具体的な算定について質問があったらAさんに答えてもらってからそのつもりでね。

え! 社長説明ですか!

そうですね。この前も言った通り、環境をビジネスとして捉える当社方針もあって、社長はサプライチェーン全体から環境経営を考えていく必要があると認識しているみたいなんだ。例えば、自然解凍で食べることができる冷凍食品の開発や、環境負

そうだね。Aさん、これからこのアンケートの結果とサプライチェーン排出量算定結果を踏まえた今後のサプライヤー連携の取組みについて、社長説明に行くから、同席してください。

やりましたねーまずは当社としてサプライチェーン全体での温室効果ガスの排出について把握していることで、環境面のリスクと事業機会について検討していることを示すことができましたね。

Aさん、③企業の環境取組みに関するアンケート結果が出たよ。去年に比べてすごくスコアが上がっているよ。

アンケート結果などで取組みの効果を検討しよう